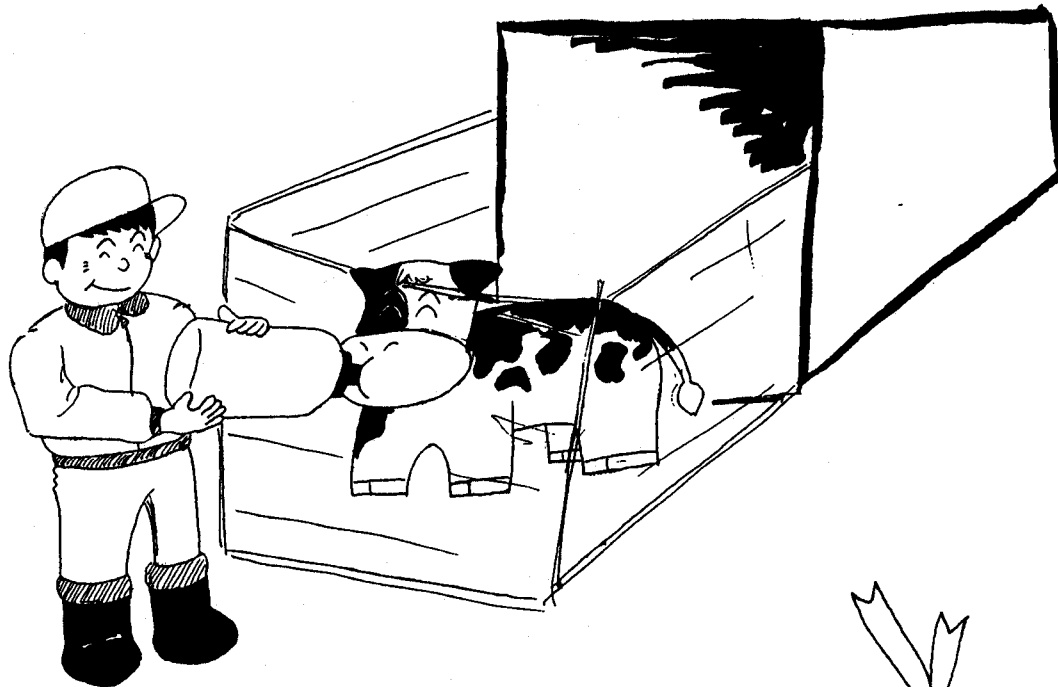


### Ⅲ. 育成作業

楽しく、意味ある作業をしていますか？  
今、転換の時です



我糞を  
今日も枕に  
月明り

片手間の  
やっつけ作業で  
牛こじれ

作業性  
よければ大きな  
利益生む

かみさんに  
まかせっきりで  
小言だけ

# 1. 育成作業（主に哺育）とはどのようなものか

(1) 今はその本質を知り見直す時期にあります。

哺育作業の特徴
(毎日ある) しかも1頭ずつの作業
(通常2回) 朝と夕方に行なわれる
(気づかい) 温度を計るなどのこまかい作業
(種類が多い) 準備から後片づけまでの作業
(行き来が多い) 牛舎内や周辺の往復作業
(観察が多い) 体調をくずしやすい
(手作業) 人間の手による事が多い
(孤独な作業) 1人でする事が多い
(天候) ハッチの場合は雨、雪、風の日もある
(たまにする作業) 糞出し作業は大変である

作業姿勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>• バケツを両手に持つ (ミルク運び)</li> <li>• 重い物をひきずる (仔牛の移動)</li> <li>• 追っかけ回してつかまえる (バラ飼い育成牛)</li> <li>• 重い物をひっくり返す (一輪車使用)</li> <li>• 中腰での作業 (ミルクの調合)</li> <li>• 体をひねる (狭い施設内)</li> <li>• アンバランスな姿勢 (初回の吸飲等)</li> </ul>
作業環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 暗い (窓をふさいでしまうため)</li> <li>• 余臭 (あらゆる臭いがこびりついている)</li> <li>• デコボコ (段差あり、柱あり)</li> <li>• すべる (フン尿処理が未整備)</li> <li>• ハエ、ヤブカ (小さい虫が多い)</li> <li>• ドロドロの中を歩く (外の給餌場等)</li> </ul>

親牛の管理もしながら、更にこのような状況下で働いている作業者の体は壊れてしまったか、その寸前の所に来ています。しかも、経営規模的には、大方の農場では縮小転換できない道をたどっております。もう昔のような15~20

今、この時が  
脱皮 (転換) の  
時期なのです。

頭時代のやり方では、ゆとりを生む生活を築けません。これからは、力仕事を減らし作業の単純化・軽質化を図り交替が可能でより高い報酬が得られる。そんな作業方法に頭を使って切り替えなければなりません。

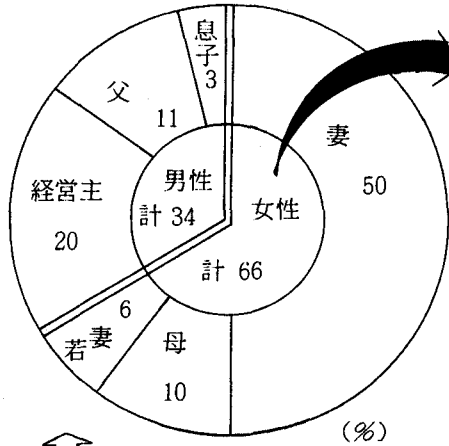
社会全体では	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 週休2日制の定着化</li> <li>• 労働時間の短縮 (目標1,800時間)</li> <li>• 労働力の確保、作業システムの進歩、作業環境の快適化、各種保障対策の充実等</li> <li>…労働内容の軽減が計られた結果、余暇時間が大幅に増え、時間的にゆとりのある生活が実現されつつあります</li> </ul>
当地域の酪農では	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 夫婦中心の作業体系で労働力が少ない</li> <li>• 多頭化傾向にある (後戻りしづらい)</li> <li>• 朝夕の作業時間帯に、学校への送り迎えがあったりなどして…地域社会と酪農家の生活時間がかみ合いません</li> </ul>

哺育作業の特徴に対する実情
<ul style="list-style-type: none"> <li>• さほどの作業ではないが休めない</li> <li>• 道具の工夫が少ない</li> <li>• 機械化しにくい</li> <li>• 個人差が生じやすい</li> <li>(仕事に対する気持の持ち方)</li> <li>• ムダな作業動線が多い</li> <li>• 手作業は労働評価が低くみられがち</li> <li>• 婦人にあらゆる作業が集中しやすい</li> <li>• まかせっきりで、技術向上がおくれる</li> <li>• 施設の整備をしたがらない (価値観の不足)</li> <li>• 婦人の作業に対する手だすけが少ない</li> </ul>

## 2. 哺育育成作業の糞処理と哺乳作業について聞きました

～育成管理実態調査より～

Q1. 哺乳作業の主な担当者は？  
(複数解答)



☆哺乳作業は女性が主役！

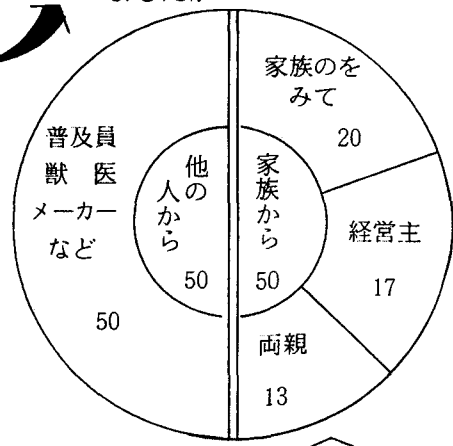
Q2. 哺乳作業を女性が担当

したきっかけは？

- ・自然に (なんとなく)
- ・女性だから
- ・子育て経験あるから
- ・腕力がいない
- ・母からの引き継ぎ
- ・細かい仕事だから
- ・男の人は機械作業があるから

目的意識と無縁の決め方！

Q3. 哺育作業はどの様に学びましたか



家族の哺育技術の水準が必ずしも高いとは…限りません。

Q4. 糞の取り出しは何日おきですか？またその作業時間はどのくらいですか？

《糞の取り出し》

《作業時間》

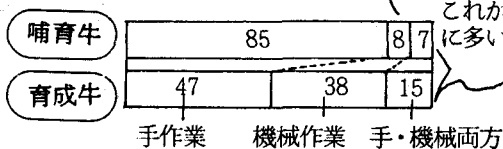
※数字は%

牛種	季節	《糞の取り出し》		
		毎日	2~7日おき	8日以上
哺育牛	夏	40	33	27
	冬	47	28	25
育成牛	夏	28	41	31
	冬	36	46	18

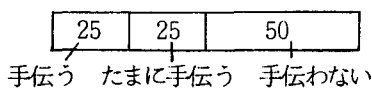
牛種	季節	《作業時間》			
		5~15分	20~30分	45~60分	70分以上
哺育牛	夏	18	43	22	17
	冬	20	43	20	17
育成牛	夏	15	49	24	12
	冬	15	46	25	14

毎日では人がイヤ。  
長すぎると牛がイヤ。  
清潔でかつ簡単にやる方法は…？

Q5. 糞の取り出し方法は？



Q7. 幼児や小中学生が哺育作業を手伝いますか



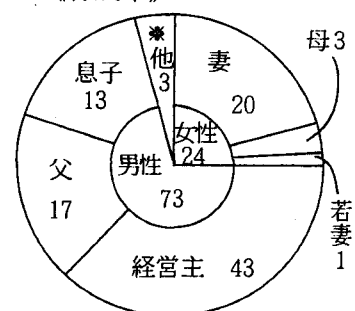
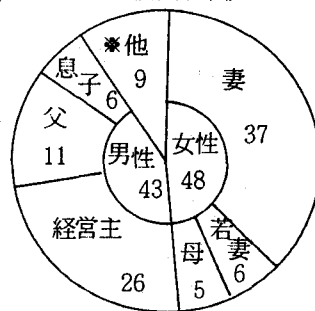
時代の変化でしょうか…？



Q6. 糞出し作業の主な担当者は？

《哺育牛》

《育成牛》



※他は実習生など

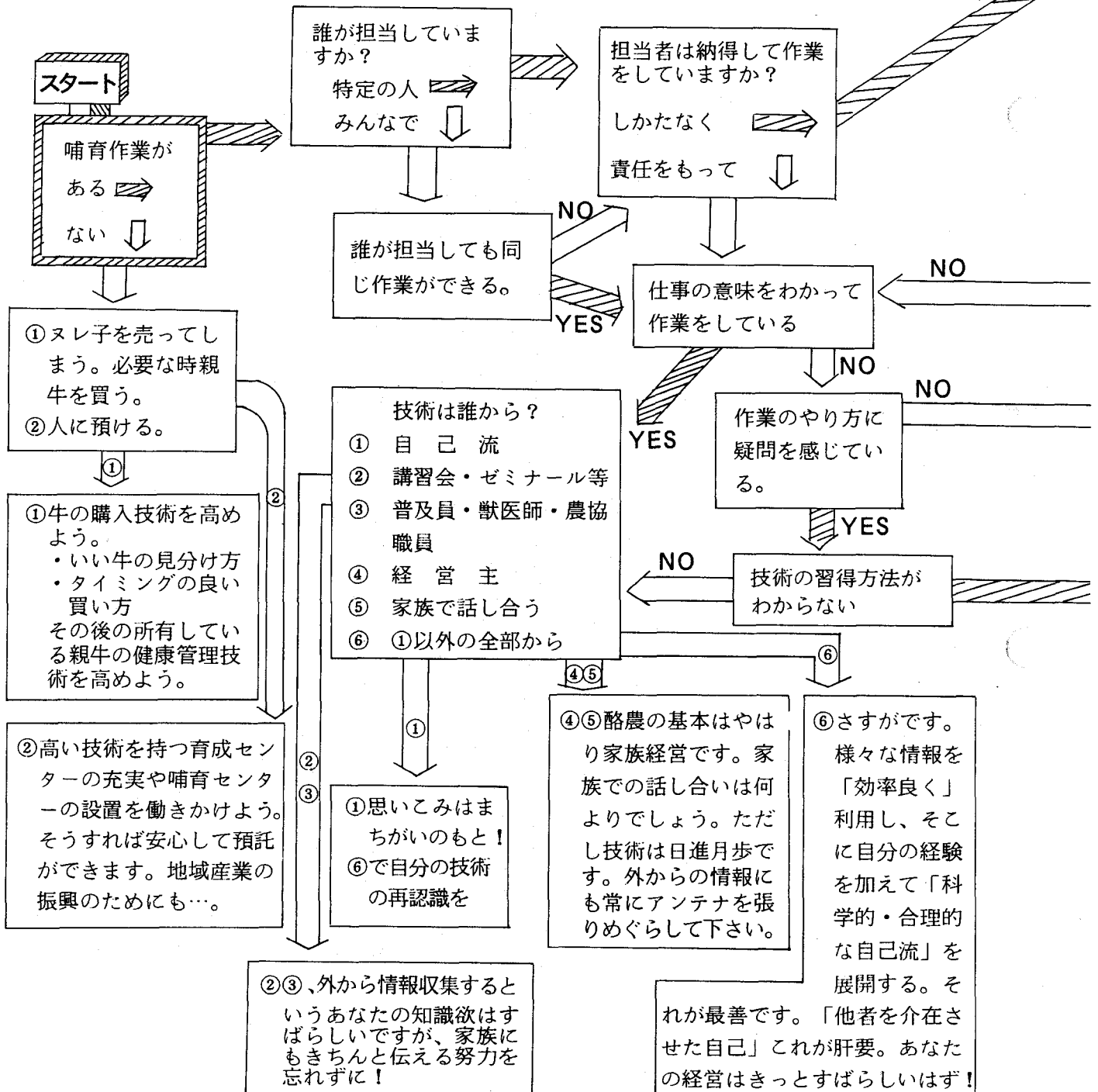
育成作業の中心は経営主夫婦で、そのうち手作業は女性が機械作業や力仕事は男性が…という感じが見えてきますね？

### 3. どうすればもっと納得をして楽しい哺育作業ができるのか。

ほ育・育成作業には様々な特徴や実情があることがわかってきました。

**意識の転換を!!**

この作業をあなた自身がどうとらえ、どう考えて取り組んでいくかによって、同じ作業でも楽しくやっていくことができるはずです。仕事に対する考え方の参考として質問の答えを矢印またはYES・NOの方向へ進めて下さい。(番号の場合には該当する所へ読み進めて下さい)



できることなら作業を誰かにかわってほしい。

YES

NO

ほ育作業はほかの仕事に比べて重要だと思わない。

NO

NO

YES

ここでぐるぐるとまわってしまう人は、どこか考え方にかんちがいがある様ですもう一度じっくり考えて、解答し直して下さい。

育成牛やその作業の価値を見直そう！

- 1) 育成牛は融通のきく大切な資産、より高い資産価値は経営の宝物。
- 2) 3つ子の魂は100まで！2～3年後に大輪の花を咲かせるための苗育てなのです！

家族内で作業技術が統一されていて、誰がやっても同じ効果を期待できるならば、作業を交代することも可能です。

1) 他産業から来た若妻さんの酪農入門に。⇒牛に触ったことのない若妻でも子牛なら安心。筋の通った技術をきちんと伝達すれば初心者だって大丈夫。

2) 子供達の仕事として

⇒学校の時間に合わせて作業できるし生き物を扱うことの大切さ、楽しさを体験させることもできます。

3) おじいちゃん、おばあちゃんに

⇒現役を退いたってまだまだ元気。何十年というキャリアをうまく生かしてやってもらうのも経営貢献。これが何よりの元気の素かも。

技術を得るためにはこんな方法があるのです。

(主に婦人に向けて)

①情報を得よう。

⇒大切な情報は目の前にあっても意識しなければ見のがしてしまいます。農協・普及所便りにだってたくさんのヒントが……

②講習会に参加しよう。

⇒知識を得るだけでなく、たくさんの方が集まる場を利用して情報交換だってできます。最近では婦人の参加率がますますアップ！

③他人のやり方を知ろう。

⇒百聞は一見にしかず。視察に行くだけでなく、お隣のやり方に…知らないことだって…。

④家族の理解を得よう。

⇒酪農経営の立派な担い手である婦人の技術習得が成功のカギを握っているのでは？

⑤今、子育て中の奥さんへ

⇒今こそ勉強が大切です。

子供と一緒に参加したり、他に預ける方法を考え参加しよう！

毎日の作業だからやっぱり楽しく…



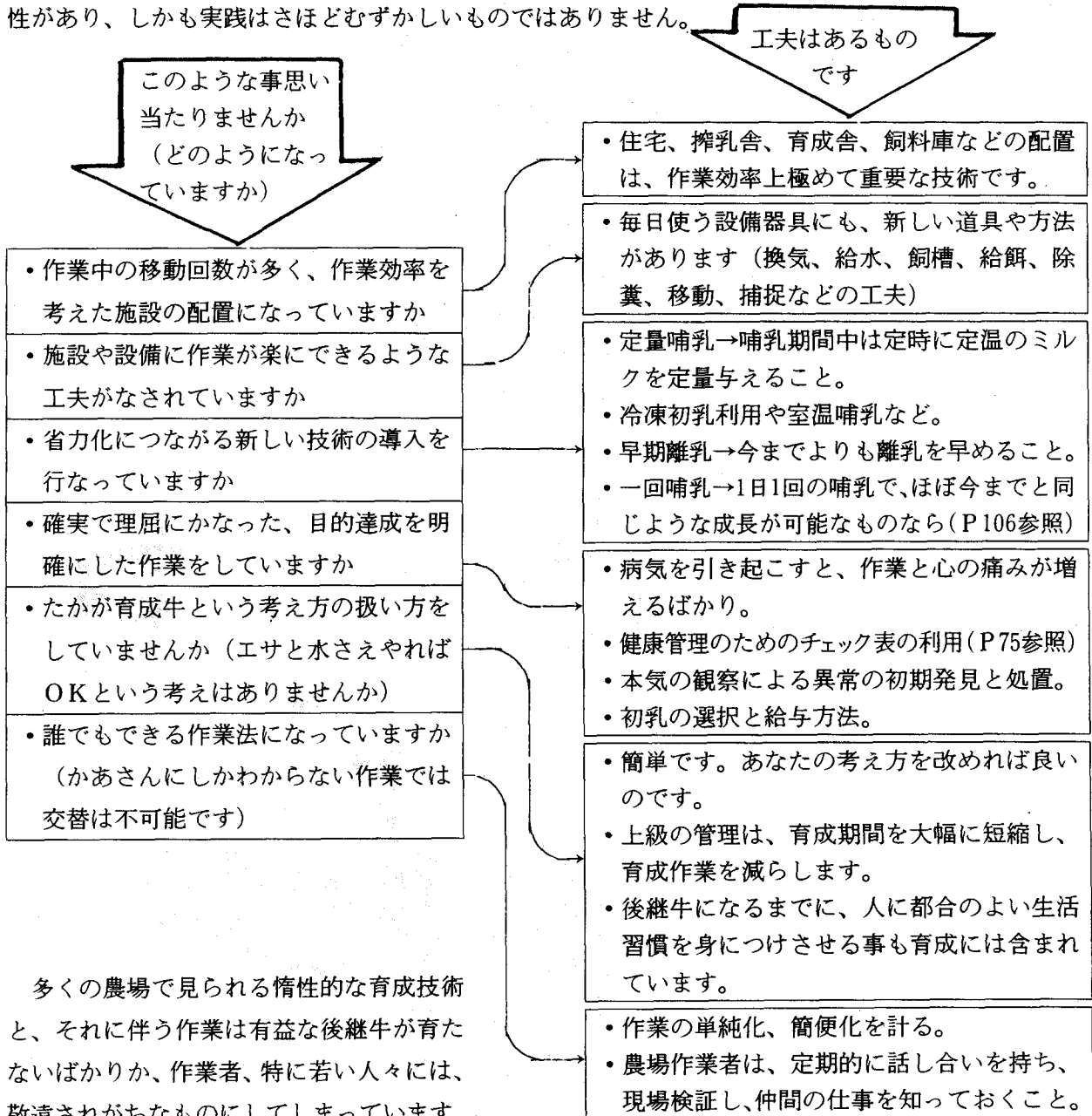
作業は仕事に対する考えひとつで楽しくも、つまらなくもなるものです。

あなた自身が納得して作業をするために、今までの意識を変えるきっかけの意味をこめて示してみました。

実際の作業内容等の改善に向けての取り組み方 **作業の転換!!** は次頁に…

## 4. いざ取り組みに向けて

育成作業は、酪農経営をささえる上で、家族と酪農をつなぐパイプ的な役目もはたしています。確かに、家族のだれもができる作業ではあります。しかし、その作業がむなしい、せつない労働だけに終わるようでは、面白くありません。作業方法の見直しに対する具体的な取り組み方には、多くの可能性があり、しかも実践はさほどむずかしいものではありません。



多くの農場で見られる惰性的な育成技術と、それに伴う作業は有益な後継牛が育たないばかりか、作業員、特に若い人々には、敬遠されがちなものにしてしまっています。

良い牛を作るためにも、そこで作業する人にとっても、快適で意欲がわいてくるような作業の実践が必要です。また、作業法の変更等にあたっては、一部分の改善を1人だけで行くと失敗する事も多いので、家族全員がわかるように総合的な技術改善を考え、一気に作業方法の転換を計ることが必要でしょう。さまざまな工夫によって、少しの手作業ですむようになれば、婦人だけに作業が集中する事もなくなり、育成にも本腰を入れて取りかかれるようになるでしょう。